
君の隣で眠らせて・・・？【君と僕との t imelimitの恋】

桃子 ♪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の隣で眠らせて・・・？ 【君と僕とのtimelimitの恋】

【Nコード】

N06510

【作者名】

桃子♪

【あらすじ】

俺の体は、タイムリミットがある

でも、死ぬ時は、

『君の隣で眠らせて…？』

t
i
m
e

l
i
m
i
t

【タイムリミット】の恋

最後の願い

◇病室◇

慧.. 「なあ、葵？」

葵.. 「何？」

慧.. 「…俺たち、付き合ってるよな？」

葵.. 「当たり前じゃ『楽しい?』」

葵.. 「えっ?」

慧.. 「ずっと寝たきりの俺と付き合って…楽しい?」

葵.. 「…楽しいよ♪私は慧と話せるだけで楽しいよ!!」

慧.. 「…デートしない?」

葵.. 「え?」

慧.. 「何も出来ないままなんて情けないじゃん」

葵.. 「でも、勝手に病院抜け出しちゃ…」

慧.. 「もし俺が死んだら…何も出来ないまままでこの恋は終わらせたくない」

葵.. 「もし死んだらでしょ？ 慧は死なないよ」

慧.. 「そうかもしれない…けど、いいでしょ？」

これが最後のお願いだから——…

葵.. 「いいよっ！！でも無理しちゃダメだよ？」

慧.. 「わかったよ♪じゃあ準備するな」

そして二人は病室を抜け出した

***最後の願い* (後書き)**

どーも初めまして！

作者の桃子♪です

皆さん楽しんでいただけましたでしょうか？

なんかグダグダになっちゃいましたけど・・・。

まあ気が向けば続きをかこうかなと思ってます

それではまた続きがあればお会いしましょう

ぐっばいちゃー♪

迫る最後に

二人が向かった先は…

◇ゲームセンター◇

葵.. 「慧がんばって!!」

慧.. 「あまりプレッシャー掛けるな」

UFOキャッチャーで遊んでいた

葵.. 「もつと↑!! いや、ちょい↓かも!!」

慧.. 「よしっ…そのまま…よっしゃー!!」

葵.. 「やったあ♪」

慧.. 「はいっ!! はじめてのプレゼント♪」

それはクローバのペアリングだった

葵.. 「ありがと♪嬉しい／＼」

そして楽しく遊んだ二人…

しかし、

慧；「次…どこ…行く？」

葵..「次は…慧大丈夫？」

慧..「大丈夫…どこ行く？」

葵..「顔色悪いよ・・・？帰ろう？」

慧..「嫌だ…まだ、葵といたい」

葵..「慧っ！！無理しちゃダメだって！！」

慧..「あの場所に行きたい…お願い…」

葵..「…」

でも、最後のお願いだから…

私は、慧と出会った場所に来た

そして…

慧..「懐かしいな…ココ」

慧の顔はどんどん白くなっていく

葵..「け…いっ…帰ろう…早く病院に…」

慧..「手…出して？」

葵は、震える手を慧に差し出した

スルっ…

クローバの指輪だった

別れの時

慧..「ごめんな…。一人じゃ寂しいよな…。」

葵..「け…い…」

慧..「葵を置いてドコにも行かないよって…誓いたいけど…もう」

葵..「嫌だ…慧…」

慧は木の下に座った

慧..「俺の体には…タイムリミットがある…みたいなんだ…」

葵..「なんで…なんで黙ってたの」

慧..「何も出来ないまま、終わらせたくなかった…葵を泣かせたくなかった…」

慧は葵の肩に寄りかかる

慧..「知ってる…動物って死ぬ場所を探すの…だから俺も、せめて死ぬなら」

葵と出会った場所で、葵の隣で、眠らせて…？

葵の姿を見るけれど 葵は俺には気付かないかもしれない

葵..「そんな事ないよっ..」

私は慧の手を強く握った

握った手の中にはペアリング

慧の頬に 流れた雫は 白雪のように冷たくて

慧..「安心しろ..帰って来るから..」

そして、そっと目を閉じた

葵..「どこへ行くの..ねえ!! 慧っ!!」

私に黙って何処に行くの!!

教えて..教えて..

どうして目を閉じてるの..寝ているの?

なんで顔が真っ白なの?

そんなことしないで教えてよ…

何処に行ってしまったの…教えてよ…

あの時約束したよね！

「ずっと一緒に居てあげる！そして僕がずっと守ってあげる！」

「うん！絶対だよ！私もずっと一緒に居るよ！」

なのに…私を置いて…私は一人ぼっち…

寝てないで ほら！教えて！喋って！

そしてまた一緒に遊ぼうよ…ね…だから…

動いて…動いてよ…喋ってよ…

私を…私を1人にしないで…

―――

***別れの時* (後書き)**

なんか長かった・・・。

読むのめんどかったっすよね

（▽；）ハッハッハ

まあいつか！

それではぐっばいちゃー♪

* 帰らぬ人 *

そして時は過ぎ、私は今、慧と出会った場所にいる

「帰って来るから」

その一言が慧が言った最後の言葉

私におそろいのリングを預けて

そのまま帰ってこない慧

いつまでまっていれば良いの??

慧はもう帰っては来ないのに

わかっていても待ち続けてる

私の手の中の1つのクローバのリングを握りしめて

「おかえり」っていわせてよ…

私はいつまで待ち続けるのだろう

1つのリングを握りしめたまま

でも待ち続けるよ。

慧が帰って来るまで、

私はずっと…

ずっと…。

***帰らぬ人*（後書き）**

うむ、短すぎた・・・。

まあいつか。

なんか最終回っぽいけどちがつたりするんですよ

それではぐっばいちゃー♪

待ちわびて

友..「お誕生日、おめでとーっ!!」

葵..「あ、ありがとう★」

今日は私の誕生日だった。

だから今日は友達と一緒にパーティーをした

でも、大好きな慧がない、パーティーは

つまらない。

ほんとうはずっと

叫びたかったよ

あたしの声で

寒さで震えた指先

慧の頬に触れるまで

ぬくもりなんて知らなかった

伏せた瞳から

涙が落ちるの

それはきつとあたたかくて

きつと慧に逢えたから

『泣かないで…』

そんなこと言われても、

我慢なんて出来ないよ

大切な、慧を失ったんだよ…？

空を見上げて見たら

涙なんて簡単に出ちゃうよ…

悲しいんだよ…

慧が隣にいてほしいって、

何度も考えた

でも

慧のいる場所はすごく遠いから

考えるのはやめようって思ったのに

慧のもとへと続く空を見ると

悲しくなるよ

遠いね…

早く大人になりたい

まだ子供だもん

そうしたら

慧のいる場所へ行けるのに…

子供って ヤダな…

制限されてばかり…

自由だけど…

1人では何も出来ない

空を見上げて流れた涙は

自分の無力さのせい

逢いたい――――

逢いたいよ

慧：

何度も空に手を伸ばしてるのは

慧に触れたいからだよ…。

***待ちわびて* (後書き)**

めっちゃ久しぶりの投稿！

いやあなんか最近全く書けなかったんでね・・・。

まあなんて中途半端な文なんでしょう (T T T) あうう

また近いうちに更新しなくちゃだ

ではぐっばいちゃー♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0651o/>

君の隣で眠らせて・・・？【君と僕とのtimelimitの恋】

2011年10月7日23時38分発行